

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>加ム箕谷の理念として、「入居者の一人ひとりが安心して明るくそして本来の持っている固有の機能を大切に、できるだけ自分らしく過ごせるように援助する」を基本に行動指針として、地域社会と交流を持つことをうたっている。出来る限り外出&amp;外食を心掛け地域の住民と接する機会を設けている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念および行動指針については、ユニットの誰もが見える位置に額縁付きで掲示している。また、ケース記録等入力の際にシステム入力しているが、パソコンのスクリーンに加ム箕谷の「理念」を表示しており、いやでも目の前に「理念」が目に入るよう工夫している。また、月1回の「勉強会」で具体的な事例を通し、理念をベースとした考え方など話し合っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>今年4月には、プロの落語家と呼び「なごみ寄席」を開催した。約60人もの近隣の地域の方々に来ていただき約2時間入居者及びスタッフとともに楽しみ交流を持った。また、加ム箕谷を身近な施設として理解してもらうため、「加ム箕谷だより」を作成し、地元の自治会に80部配布させてもらった。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>朝の散歩では、できるだけ、すれ違った人々や途中の家の住民の人達に積極的に「おはようございます」の声かけをしている。また、よく電話を貸して欲しいとか力を貸してほしいとかちょっと相談にのって欲しいとか気楽に来られている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>今年4月に、開催した「なごみ寄席」では、健康講話(元気で長い生きするには)が竹歌広場「なごみ寄席」の3部構成で行なった。健康講話は、当法人の理事長(院長)をお願いした。が竹コーナでは、下谷上がオサ-外の方々に参加していただき、また、地元自治会長にもお越しいただいた。一方、毎年地元自治会主催の「夏祭り」に参加させてもらっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域の方々の健康意識向上を目的として、今年4 月に「なごみ寄席」の第1部では、当法人理事長 (院長)をお願いして、「健康講話」を近隣にお住 まいの方々に参加いただき行なった。また、11 月には、地元自治会主催の「やさしい生活応援講 座」にも理事長に講演(「元気で長生きするに は」)をお願いした。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三 者評価を実施する意義を理解し、評価を活かし て具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価で、指摘された要改善事項の、 権利・義務の明示 運営理念等の啓発 職員 間での確実な情報共有について、それぞれ改善を 図った。		
8 運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の近況・事業所概況を毎回 報告し、毎回タイムリーなテーマを取り上げ様々な意見を参考 にし、実際の運営に反映しかつ改善している。 (過去に取上げたテーマ) 第3者評価結果報告 ビックイベント「なごみ寄席」に ついて 「保険給付に関わる調査の実施」報告 基本料金の見直しについて 認知症勉強会 タミル シアターについて		
9 市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町担当者には、事あるごとに問合せしたり、実際に 高齢福祉課に出向き相談に行っている。例えば、運営 推進会議の内容詳細や、なぜ、2ヶ月毎に開催なのかな ど。お忙しい中出席していただいているので、身のあ る会議にしたいが故に議題としてのテーマを考えるのがと てもつらいとか相談している。また、サービス事業開 始についての認可条件や注意点など市に出向いて相談 に行き指導を受けている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用  長年自レ職員は、地域福祉権利擁護手帳 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	認知症介護実践者研修(神戸市主催、兵庫県社会 福祉事業団)の中で「意思決定と権利擁護」のテ マ名で講義(半日程度)を受けている。当研修 は、管理者を含み職員19人中7人受講してお り、今後も順次受講を計画している。		
11 虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	認知症介護実践者研修(神戸市主催、兵庫県社会 福祉事業団)の中で虐待について講義(半日程 度)を受けている。当研修は、管理者を含み職員 19人7人受講しており、今後も順次受講を計画し ている。また、実際に虐待の事実がないかは、日 常の生活の中で主任及び所長が確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5.人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホーム管理システムのプロフィール（過去の仕事、趣味、特技、性格、既往歴、家族構成等を本人や家族に聞き）をシステム入力している。また、24時間途切れることなく「ケース記録」入力により入居者さんの行動や話したことは、記録し職員間で共有している。これらの情報を念頭に置きながら帰宅願望の強い入居者にも根気よく寄り添っての介助を行なっている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居される前に、いろいろなグループホームに行き本人を預けて心配ないか確認されて入居されている。その際や、見学にこられた時など当ホームの理念・特徴を中心に説明を行い、十分に得心され入所されている。また、入所後も面会時間は、24時間いつでも可能にし、気楽にお話しできるように職員にも指導している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所時、入念に家族の方、本人から今までの生活様式、生活習慣などからの要望や注意事項等を聞き、それに応えるようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>一律的に対応するのではなく、その人その時にあった対応を心がけている。入所当初は、ほとんどの入居者は、帰宅願望が強く、いろいろな理由を創作し帰ろうとされるが根気強く、事務所（事務課、居宅介護支援、訪問看護）の職員も協力しながら、本人の行動を制限しないケアを行うとともに他の入居者さんと一緒に散歩なども毎日欠かさず行くことによっても、できるだけ早く環境に馴染んでもらえるように努力している。</p>	
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームのレイアウトとして、中央に台所とスタッフルームを配置し、ダイニング・リビングがその隣にあり、ほとんどの時間をリビングで過ごされている入居者を見守れかつお話しができる。料理を手伝ってもらったり、柿をむいてもらったり、昔の歌を教わったり、テレビを見ながらお話ししたりごく自然な形で職員と入居者が毎日を過ごしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	入居者に少し変わったところがあれば、かならず家族に連絡し相談している。また、家族も面会時などに気楽に相談されるし、入居者本人にとっていい方向に持っていくよう一緒に考えて対応している。また、家族の方で要らなくなった物品を寄付していただいたりもしている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族の方にいろいろな話を聞き、特に入居者とは、日常の暮らしの中で昔の話をしたりして、暗黙知的情報を蓄積している。入居者がどうしても家族に会いたいといわれたり、面会が長期間途切れたりした時など、電話などで家族に連絡し来てもらうように仲介している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔商売していた商店街や思い出深い湊川神社に行きたいと言われれば、事務課の職員の協力を得て、また、OFFの職員にボランティアを頼み出かけたりもしている。また、お友達が尋ねて来られることも多々あるが、昼夜を問わず気持ちよく迎えている。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ほとんどの時間を「ソラ」で過ごされるので、入居者同士の言動が目の辺りにわかり、馬の合う人、合わない人も職員が全て知っており、入居者の関係が一時的に悪くなくても、すぐに職員がフォローできる体制にある。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今年は、1月と11月に入居者が亡くなられた。1月に亡くなった家族からは、自宅で使用のペットを寄付していただいたり、1月に亡くなられた家族の方からは、料理屋を閉店するので、要らなくなった食器や冷蔵庫など沢山のものを寄付していただくなどお付き合いが続いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>			
<p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>お花が好きな方、散歩が好きな方、畑仕事得意な方、餡が好きな方、歌が好きな方、様々であるが、共通で喜ばれるのは、外出である。一度には出来ないで、計画的に歌謡ショーには年1回行ったり、桜、つつじ、もみじなど見物、ふれあい喫茶、マツリコンサート、足浴&amp;お食事、スパなどへの買い物ツアーなど年間を通して行っている。また、畑仕事や、コンビニへ餡の買い物、音楽療法も実施している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>グループホーム管理システムのプロフィール(過去の仕事、趣味、特技、性格、既往歴、家族構成等)を本人や家族に聞きシステム入力している。また、24時間途切れることなく「ケース記録」の入力により入居者の言動は、逐一記録し職員間で共有している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>グループホーム管理システムの「ケース記録」で入居者の過ごされている様子をほとんど切れ目なく入力している。また、朝には、バイタルを計り、臨機応変に体重測定もおこなっている。このような情報や職員からの申し送りによる情報をかみ合わせ最新の入居者状況を把握している。</p>	
<p><b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の毎日の行動は、グループホーム管理システムの「ケース記録」と職員の持っている情報をもとに、また、家族からの要望や意見など日頃から聞いていること、及び「家族会」や「運営推進会議」での意見や要望をもとに介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入居者の状況が変化した時および定期には3ヶ月毎に入居者とその家族の要望を確認し、職員を交えてカンファレンスを行っている。これにより介護計画の見直しを実施している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の言動は、グループホーム管理システムの「ケース記録」に入力している。また、職員間で、気付いたことや今までと違う対応を話し合い計画作成担当者の介護計画に反映している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療系の介護施設として、看護師が豊富に在籍している。所長、主任が看護師資格を持っており、同じ施設内に訪問看護ステーションもあり、24時間体制で緊急時対応できる。また、事務課や、他の事業所(居宅介護支援・訪問介護・通所介護)があり、外出時や病院への診察などにグループホームのスタッフが手薄の時は、送迎を助けてもらっている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	あまり利用者から、そういった要望はないが、地域社会との交流を目的に、自治会の盆踊りに参加したり、神社のお祭りや、子供歌舞伎などに参加させてもらっている。		
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者や家族に代わり、入居者の紙おむつや車イスなど、取引のある業者に注文し、立替払いしている。		
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ利用者や家族からのニーズがないため特に協働はしていないが、今後は、意向が無いかを確認して、あれば、地域包括支援センターと協働していきたい。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>入居者さんには、食事の料理の手伝いや、配膳・下膳、畑仕事（種植え、収穫など）、居室の清掃、廊下・階段の掃除、洗濯物の片付けなど得意なことや好きなことで役割を持ってもらっている。ビュッケットのなごみ寄席では、入居者の出番を作り、美空ひばりの「真っ赤な太陽」で「リハビリ体操」をステージの上でやってもらった。</p>


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの鍵は、日中は鍵はかけていない。よるの8時から、防犯のため電子ロックをかけている。また、居室の窓も普通に開けるようにしている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所仕事をしていても、利用者が良く見えるレイアウトになっており、危険を感じたらすぐに駆けつけられるようになっている。仮に、ホーム内から職員を目を盗み外に出ても、事務所を通らなければ施設の外の出られないようになっている。事務所には、必ず誰かスタッフがいるので1人で出ることにはできない。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	貴重品は、できるだけ部屋には置かないようお願いしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルや緊急時連絡網の説明は、入職時オリエンテーションを行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故対応マニュアルを、スタッフルームに備え付けている。業者によるAEDによる救急時応急措置の説明会を催している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルにより年2回(夏・冬)消防訓練を実施している。訓練では、通報訓練、避難訓練、総合訓練および水消火器による消火訓練を行っている。また、スタッフルームに、緊急時にも対応できるように火災時行動ホースターを掲示している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	特に転倒による骨折は、未然に防ぐことが非常に困難であることなど、日ごろから家族の方に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の言動および行動は、グループホーム管理システムの「ケース記録」・「バイタル記録」に入力しているため、シフトが変わっても情報が途切れることなく入居者の状況は把握できる。かつ、シフトが変わって出勤した職員に対して、入居者の状態や注意事項などあれば申し送っている。また、職員がその都度異変に気がつけば主任に即報告して対応している。		
74 服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	グループホーム管理システムの個人記録に服薬データが記録されておりスタッフ間で情報を共有している。入居者個別（薬箱）に朝・昼・夜に分けて管理しており、服用後服用担当者が捺印し、漏れや間違いを起さない配慮をしている。		
75 便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	グループホーム管理システムの「ケース記録」で入力された排便の状態と量を確認し、食事に食物繊維（小麦ごぼう等）を取り入れる等心がけている。また、整腸のため主食の他にヨーグルトやヤクルトを付けている。		
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	月1回連携協力歯科医院に往診を受けている。口腔ケアの要領、注意点などの指導を医師、歯科衛生士から受けている。朝・昼・夜の食後のマウスケアや義歯洗浄など介助している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・味については、入居者の好みを頭に入れ、季節に応じて、記念日や祝日にあわせたものを組み込むよう考えている。水分確保は、主任（看護師）が、臨機応変に職員に適量を指示しており、不足している入居者には医師に相談し点滴を行い補っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は、全員の手洗いやうがいの徹底を図っている。毎年11月にインフルエンザの予防注射をおこなっている。また、保健所からの食中毒情報(通達・発生)は、朝のミーティング(連絡事項が主)で知らせている。掲示板にも食中毒情報を掲示している。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は近くのスーパーを主に入居者と買物に行っている。大量の購入は避け、新鮮なものを都度購入している。また、冷蔵庫から食材料を取り出す際に、賞味期限のチェックをするようにしている。また、冷蔵庫は、古い物から順に手前に置くようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	もともと施設が、長屋の家に両脇から囲まれるようになっており、分かりにくい位置にある。施設の向かい側に「案内板」を電柱に設置し、施設入口付近に、目立つ大きな看板を設置している。施設の玄関の前には、草木を植え、花鉢や金魚鉢を置き親しみやすさを出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は回廊型で見当識障害に対応しており、居間と食堂と台所が一体となった家庭的な作りになっている。 トイレも普通の家庭と同じように各居室のすぐ近くに設置している。 施設玄関が道路から奥まっている為、施設入口付近に事業所名が入った目立つ案内板を設置している。 施設周りと玄関付近には、葉が夕、パンジー、つつじなど四季にそった花木を植え、1階玄関前には金魚とどじょうの鉢を置いており親しみやすさと入り易さを表現している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一番端の落ち着ける場所に2~3人掛けのチェアを設置しており、実際に気のあった入居者が利用しておられる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッド・チェスト・アコン・空気清浄機は、備え付けだが、テレビ・収納箱・仏壇など好みのものを持ち込み、衣類関係も今まで使っていたものを自由に置けるようにしている。又、家族の写真・思い出の品など飾り、個人個人に馴染んだ居室になっている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各居室には、エアコンと空気清浄機が設置されている。スタッフルームに、温度設定（夏：22～24度、冬：16～18、春・秋：18～20度）の張り紙を貼るつけている。空気の入替えは、日に2回実施している。また、冬には加湿器などにより適切な温度設定を促している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・浴室・トイレに手すり、浴室には滑り止め腰掛けなど用意しており、入居者が自立した生活を送ることができるように配慮している。 グループホームの浴槽では、対応しきれない入居者には、デイベースの機械浴槽を利用している。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者さんの中には、グループホームにお金を払って来てるのだから職員の手伝いや家事的な仕事をする必要がないといわれる人もおられたり、本来自分でできるのにスタッフにさせようとする方がいる。かなり粘り強く入居者とお話しをし、説得してやってもらっている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>リビング・ダイニングのすぐ外には、テラスがあり焼肉パーティなどを催している。また、天気の良い日など庭に出て畑仕事をしたり、畑を囲んだ散歩道を歩いて楽しんでいる。</p>		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)